

景気ウォッチャー調査（10月）の概要

< 景気の現状判断DIの推移 >

	7月	8月	(前月差)	9月	(前月差)	10月	(前月差)
各分野計	52.6	47.3	(-5.3)	45.3	(-2.0)	45.9	(0.6)
家計動向関連	51.8	45.2	(-6.6)	43.2	(-2.0)	44.5	(1.3)
企業動向関連	51.7	48.3	(-3.4)	46.0	(-2.3)	46.1	(0.1)
雇用関連	59.5	58.4	(-1.1)	58.4	(0.0)	54.8	(-3.6)

< 景気の先行き判断DIの推移 >

	7月	8月	(前月差)	9月	(前月差)	10月	(前月差)
各分野計	48.5	47.1	(-1.4)	46.4	(-0.7)	45.9	(-0.5)
家計動向関連	46.4	45.4	(-1.0)	46.1	(0.7)	46.1	(0.0)
企業動向関連	49.9	48.3	(-1.6)	44.7	(-3.6)	43.0	(-1.7)
雇用関連	58.7	55.3	(-3.4)	51.7	(-3.6)	51.0	(-0.7)

< 現状判断コメント > (:良、 :やや良、 :不変、 :やや悪、 x :悪)

[家計関連]プラス要因 : 季節商材の動きが良くなったこと

前月は残暑により衣料品を中心に秋物の動きが鈍かったが、今月は冷え込みとともに秋物が動き出している(九州=百貨店)。

[家計関連]マイナス要因 : テレビ等の駆け込み需要の反動

テレビを中心に大幅な販売単価ダウンが全体の販売実績に大きな影響を与えている(南関東=家電量販店)。

[企業関連]プラス要因 : 生産活動の回復等

東日本大震災の影響による部品調達難から生産、販売が遅れていたが、7月以降の増産により取り戻しつつある(四国=一般機械器具製造業)。

震災復旧関連の工事の受注が継続している(東北=建設業)。

[企業関連]マイナス要因 : 急激な円高の進行による影響

売上は、国内向けでは市場の冷え込みが続き厳しい状況であり、海外向けは順調に注文が入るが、円高の影響で採算が取れない状況である(中国=一般機械器具製造業)。

[雇用関連]プラス要因 : 製造業での生産回復を背景とした求人増

製造業の求人が好調であるのに加え、派遣の動きも活発になっている(九州=新聞社[求人広告])。

[雇用関連]マイナス要因 : 円高の進行等を背景とした採用の慎重な態度

最近になって海外での様々な問題から需要や生産に対する不安が出てきており、採用の動きにも若干影響が出てきている(南関東=民間職業紹介機関)。

< 先行き判断コメント > (:良、 :やや良、 :不変、 :やや悪、 x :悪)

[家計関連]プラス要因 : 消費回復への期待

気温も低下し重衣料などの動きが良くなる。また、お歳暮、年末に向けて来客数は増える(九州=百貨店)。

[家計関連]マイナス要因 : 消費者の先行き不透明感

円高での海外旅行需要の回復が続いているが、タイの洪水や欧州の信用不安などの影響で、今後の海外旅行需要の低下が懸念される(四国=旅行代理店)。

今冬の電力不足による節電や近い将来への増税議論など、景気回復につながる明るい材料が見当たらない(近畿=スーパー)。

[企業関連]プラス要因 : 生産活動の回復

東日本大震災後の減産分を取り戻すため、今年度中は自動車関連の動きが活発になる(近畿=金属製品製造業)。

[企業関連]マイナス要因 : 円高による経営環境の悪化懸念

x 極端な円高で、中国からの輸入品との価格競争が激しくなっている(近畿=繊維工業)。

[企業関連]マイナス要因 : タイでの洪水被害による経営環境の悪化懸念

自動車関連の東日本大震災の復旧業務については忙しい状況が続くと思うが、タイの洪水の影響がどのように出てくるか不透明である。(北関東=一般機械器具製造業)。

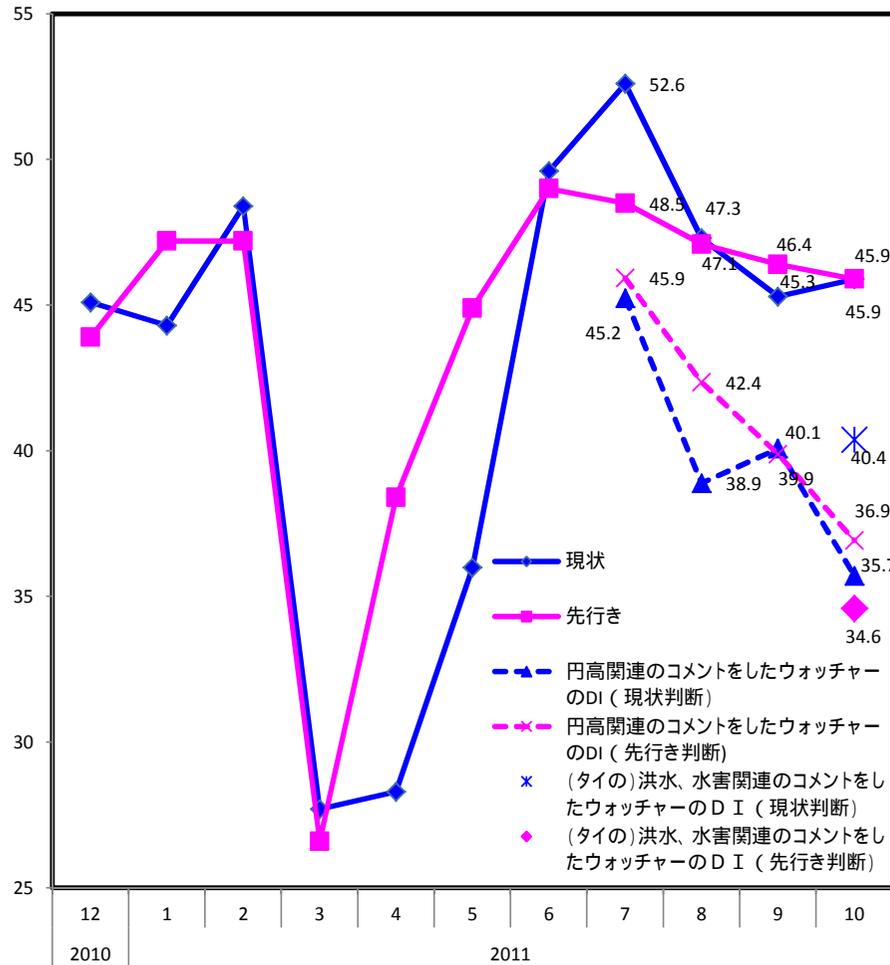
[雇用関連]マイナス要因 : 円高の進行による経営環境の悪化懸念を背景とした採用の慎重な態度

円高やタイの洪水などによる先行き不透明感から、企業に採用抑制の動きが多少出てくる(近畿=求人情報誌製作会社)。

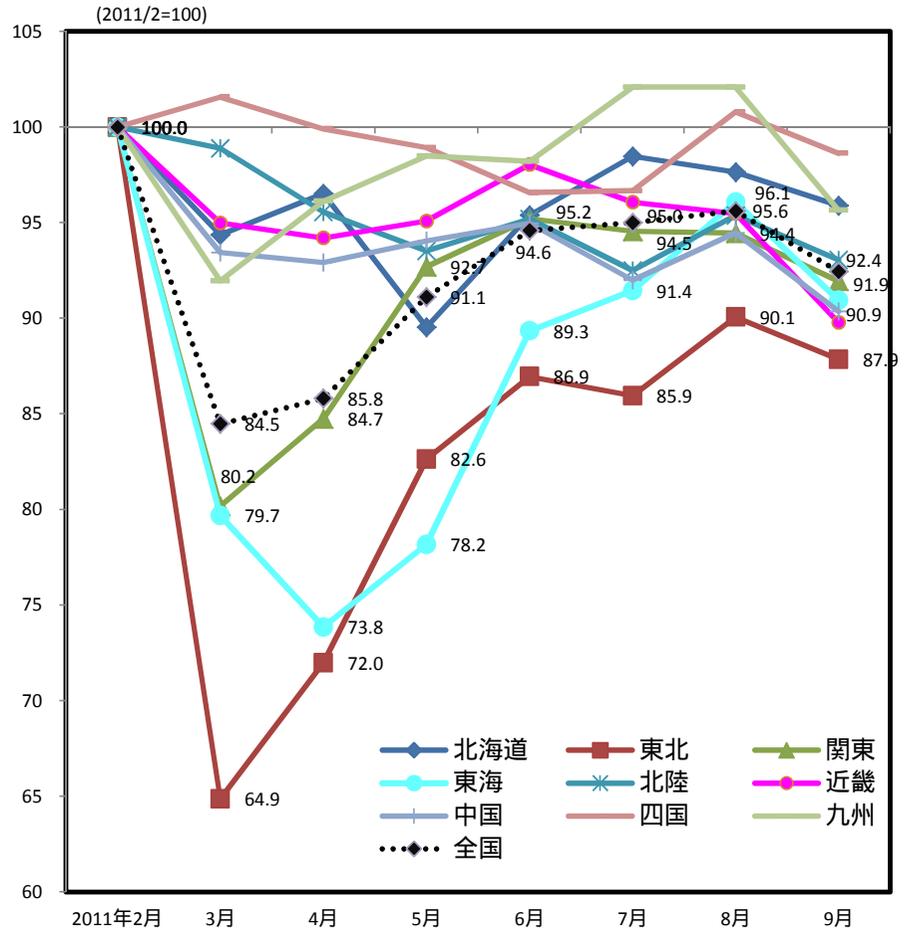
(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(2011年10月調査、調査期間:10月25日~31日)をもとに作成。

景気ウォッチャー・地域の経済

景気ウォッチャー調査
(現状・先行き判断DIの推移)



生産
(鉱工業生産指数)



(備考) 左側：内閣府「景気ウォッチャー調査」より作成。調査期間は当該月の25日～月末。
右側：経済産業省「鉱工業生産指数」より作成。季節調整値。
北陸の9月数値は未公表。